

「やっぱり落ち着くわ♡涼平といえど…
んても…ちよこ変わった？」
「大学生になれば少しはね…^{カナン}夏南は…制服の
せいかもしれないけど変わらないな」
「マジっ…これでも大学で今までにないことに挑戦してるの
アンタが高校で回すっばく言ってたっしょ」
「…あれは夏南が授業サボったりしてたから…」

「可能性の為の挑戦
そして勉強…っしょ？
まあ、お力けて涼平と
付き合っただけになった
大学行けたし…ちがっただけ」

「ん？」
「折角、涼平が
だくいききなJKのコスプレ
してきてあげたんだし…
寂しい思いさせた分の埋め合わせ…
シテもらおうかな、んふふっ♡」
「うっ…♡か…夏南」

「ゴメン…俺も一緒のとこ行きたかったけど…」
「いいよ、涼平は目標あるんだし…休みには
っしょって会ってるんだから…でも、そうだな」

ちよこ

「……ふふ♡」

「やっぱ涼平……だよね……
マジで好きだよ……涼平♡」

「夏南……」

「俺も……愛してる♡」

「……うん……♡」

「あふっ♡
よかった……♡」

いつもは強気なギャルの
夏南が見せる
可愛い笑みに
いつもドキリと
させられる……だけど——

「大げさだなあ……大ひた
悩みじゃないから
……でもちょー嬉しいよ……
涼平♡」

その時みせた笑顔は
今までと
何か違っていた——

「夏南……もしかして何か
悩みがあるんじゃない？」
「えっ……わかつちやろ？」
「……頼りにならないかも
しれないけど
何でも話してほしい……
これからも
君の力になりたいんだ」



——その日から夏南とは連絡がつかなくなつた……
夏南の大学に行つても、ほとんど会うことが出来ず
大学の人間に聞いても余り学校に来ていないから
わからない……と……

ただ、夏南が所属していたサークルが
『アニメ研究部』で、そこで姫のような扱いを
受けて彼女もまんざらではなかった……という話だ

正直、信じられない

高校時代はオタク文化に興味を示さなかったし
クラスのオタク達にも、あたりが強かった

俺の注意を聞いてくれるようになったところから
色んな趣味を持つ人がいると理解しようとして
オタク達にも優しくはなつていたが……

そして連絡がつかなくなつて3ヶ月……
彼女の以前のギャル友から連絡がきて
『SNSの裏垢でコスプレしてエロ同人イベントに出てる』
という更に信じられない情報を聞き
調べてみると……彼女がイベントで出したであろう
DVDが既に2作品……しかも際どい……というか
俺にしかみせてなかったと思つていた
体を惜しげもなく晒した画像が数多くあつた……

頭が混乱する中、俺は彼女の最新作が
データ配信されているのを確認すると、すぐに購入した
一縷の望みをかけ、映像を確認すると――

ちんちん♡♡♡



「言ったけど…んっ♡
あの数、完売するなんて
思ってたかったし…はっ♡
アタシには彼氏が…」
「でもボクのあげたチョーカーー
彼氏と会ってる時もつけてたんでしょ？
それに彼女になってくれれば
またプロデュースしてあげるよ…
カナ姫も興奮したでしょ
エロコスイベでスケベな目で見られるの」
「ちゅっ…アソコ…マン」弄らないでよっ…
今…触られたらっ…「スイベで
めっちゃエロい気分にな
るっめがらっ…っ♡
すっ…イクっ…っ♡はっ…っ♡」

——映像を見ても
信じられない……

「……どうも……エロコスレィヤーの
かな……す、イベの打ち上げ終わって
これからオタサルのメンバー達と
2枚目のDVD撮影……しま……すっんっ
……ってカガツきすぎ……」
「カナ姫えっ……うっ♡」

あ……さび
しい……♡

う……ん……♡
う……ん……♡

「んてもエロコスメの楽しさ
教えてくれたし体の相性は
いいのよねえ……んぶん♡んぶん
ペロチューやばっ……んぶん♡」

「ボクはカナ姫の全部が好きですよ
腋毛マン毛ボーボーな
オゲレツなところも愛してます、んぼっ♡」
「あ……愛してるさか♡」
それに無駄毛はアンタが……あぶっん♡」

きゅん……♡

——話しながら体を好きにされている……
エツチが好きなのは夏南だったけど
こんな男達に性のオモチャの様に
扱われるなんて……絶対に
許さない人だったのに……

「はあはあ♡たまに抜いてあげてるだけで
こんなに夢中になって……p（プロデューサー）とか
ちよっ（二緒）に住んで毎日
「スハメしてたらアタシを彼女にするさか
言い出さしい……ん♡」
オタクって、ちよっいよねえ……ひっ♡」

「あ、そんなこと言いながらアタシの体…ドスケベな玩具くらいにしか思っていないの知ってんのよ。あ、あ、クリ電マあ…くさっ」

「でも、こうやってオタク達に
工口い目で見られるの……
大好きですよ♥カナ姫は」

「んふふん せいかいだから…エロDVDを売ってオナペットにゆてくれたPには感謝してるからアツタが大好きなオゲレツベロチューやってあげる、れるれるあり んふ」
「おおっ！…はぐう♡んぶうう♡」

(A large speech bubble containing stylized Japanese text)



「手はのびたアタ達にも…
媚び媚びフエッあじあける…ふふ」

「うふふふふ…
はっ あっ」

「あああ♥」

「カナ姫え！」

「ぐわっ」

「おおお♥そんな
下品なバキューム
フエラされたらっ
…ひうっ!!♥」



「んぶっ♥んぶぶっ♥カナに
もっさーメンちょーだい♥」

「おお!♥カナ姫の
ネコナデ声は

破壊力が…ぐおー」

「あん♥キモチいっ」

「おーアタシも
マン!♥くるっ♥

あめっ♥んめっ!

「ヤベっ…またイグっ!!♥」

「ソフフ♥撮影の為に
練習したのに

いつもの下品オホ声に
なってますよ…

うぐっ!♥」

こんな声を出す夏南を
自分は知らない…しかも
こんな長い時間セックスを
続けるなんて…
もう2時間近くも—

「おおー！生やハッ！♡Pのチンポの
感触が伝わって…おお♡んおお♡ひくっ！
おお♡種付けプレスやべっ♡いくっ♡ああー！
「うぐっ♡生を許してくれたってことは
恋人ってことでいいですよねえ！カナ姫え！♡」

—他の男たちは精を出しつくしたのに
このPと呼ばれる男はまだ続ける気か…
しかも生で…夏南もそれを許して…
いや…これじゃまるで…

「いいっ♡恋人でいいからっ！
もっと子宮にPのチンポをたきつけてっ！！
おお♡無責任射精で…まだっ…んあっ♡」

だっ♡なる♡
なる♡なる♡

おんセックス♡
マジでスキ♡

「ほらっ、撮影おわりっ…
あとはアンタん家で「スハメッ
パ」パ」じゅみゅみゅあ♡♡

「さあ♡さん♡さん♡さん♡
やっおカラシンの
ペロチユウひわつ」あ…さん♡」

「草汰さん羨ましい…」
「大丈夫…んぶっ…♡ボクの彼女だけど
サークルの姫なのは変わらないからね…
変わらずサークルの皆とも
仲良くしようね♡夏南♡」
「んぶっ♡アンタがいいなら…
これからヨロシクね…アンタ達♡
んっ♡んぶっ♡♡」

——もし、あれが本当の夏南なら……
俺は彼女を引き戻せるんだろうか……

前住んでいたマンションも引き払われ
連絡も全く取れず大学にも顔を出さなくなっていた

そして半年……彼女はエロコスプレイヤーとして
SNSでは相当有名になっただけ……
彼女のギャル友だった子達も
引き戻すのは諦めてしまった……

自分も……もう……
だから半年、見ていなかった彼女のオフパコ映像を
見てみることにした……
正直、前回は吐き気を催したが
まだ映像に彼女を引き戻せるヒントが
あるかもしれない……と……

……だが映したモニタには、もう戻すことが出来ない
とわかる画面が流れてた——

「……右手…赤…」

「んっ……余裕ねっ…」

「次……えくと…オマン」をA君のチンポ」

「んふふ♡やっこ来たわね…ホラホラ

便姫カナのチン媚びマンズいさくらえっ!!

んほ♡ほ♡」

「おっ♡アへっ

さすがウチの便姫っ

マンズりも

うまつ♡うつ♡

ユルマンより

こつちの方が

いいかも」

うん♡うん♡

「うほっ!あぐっ…あっ…ゴメンっ!でちゃうっ…ぐう♡」

「張り切ってますねカナ♡」

「そりゃさっふ、チンボツイスターゲームに負けたら

『お別れ』映像撮られる上に今撮影してるDVDの売り上げを全部

アンタ達にもっていかれるとか…完全にATM兼オナホじゃない!」

うん♡

うん♡

うん♡

「ボク達3人を射精させれば

勝ちですから頑張っ

勝てば3日おあずけだった

チンポ…このあと

ハメあげますから♡」

「えへへ…♡

やったっ♡…さあ…早く

アンタも射精しなさいよ

…くんくん♡

3日ぶりの大好きなPの

チンポあ…はやくはやく♡」

「なんてすっこえ!

あらっ!!♡くらえっ!♡

カナのデカ尻ピストン…んあっ!♡」

「勿論だよ♥それじゃあ撮影始めようか……」

『お別れ告白』撮影を」

「……ほっ♡ほっ♡見てるぅ？♡○○♡
もっ、知ってるかもしれないけど…
アタシ、草汰pと…恋人になってるの
んほっ♡ほっ♡…正直
こんな撮影したくないんだけど…
草汰の命令でさあ…ごめ〜ん♡
アタシがとれだけ草汰に
ソッコンなのカ
アピールンンン」

オタコ
独占欲強〜わ…
困るよね…
こんな風に
マン「こハート型
作っヒロタンス
のさかせ…ほっ♡」

「こも…草汰のこと…マジで好きになっちゃった♡
だから草汰の頼みなら腋毛もマンモ…
ケツ毛だって伸ばすし…チン媚びダンスしながら
お別れ撮影しちゃうい…」

「頭にパンツカぶせて
フタマネだっひめるくらい…
…んっ♡ぶっお♡♡♡
それくらいマジで愛してるから
…本当に「メン○○…ぶっ♡」



「うほぁ…♥ぁぁ♥やっぱこのチンポっ♡たまんねっ…んあっ♥」
「しかし酷いですな…Pのチンポ欲しさに元カレにこんな事まで…」
「ここまで堕ちると…ちょっとね…Pはいいんですか？この便姫で」
「んうゝ、んっ♥ボクのデカチンではこのユルマンが
丁度いいんだけどね♥…まあ…たまには他の子も…」

「いぐいちゃぁ…待つてみーめっちゃサービスするからぁ…♥」
「他の子じゃ絶対」いまでこないでと全部していいからさぁ」

ちよーだっ♡

あはっ♡
チンポチンポ

「捨てないでえ…れるれるれるぁ♥」
「うおっ！♥……くふ♥…でるっ！♥」
「姫はこう言うど必死になるから
カワイイですな♥
やっぱリカチ姫は
最高のオナホですな…ぐっ♥」
「んへへえゝ♥うれっ♡」
「もっ♡寝めてえゝ♥べるべるぁん♥」

「はっ♡はっ♡……♡♡……」
「アタシって…どうやら自分が嫌ってた
承認欲求と性欲の塊みたいなの
にM便姫のクソ女だったみたい…
だからさ、こんなヘンタイ女わすれて
新しい彼女…見つけて…よ…」

——わかってた……

——彼女の最新作DVDのパッケージではお腹が膨らみかけながら変態コスをして心底うれしそうな顔をした時に……

それを見て、もうどうにもならないと諦めていたんだ……

この映像を見たのも……本当はただキモチイイ自慰をしたかっただけ……俺も彼女をただの『性の玩具』としてしか見れなくなってしまうた……その証拠に

「おっぱい、おっぱい」

前回の映像では出なかった精液が彼女とのセックス以上にらせてしまったんだから……

「えへへ……♡
これからPの家で種付けするまで便姫マン」に出出してもらいます♡
ぴーす♡♡ぴーす♡♡
次回もよろしくね♡
うへへ……やば♡……
マジだのしめい♡」

妊 娠 2 ヶ 月

オゲレツレイヤー姫のガチンコファック

さあ
交
態
ミルク
タン

2ヶ月









うきうき♡
♡♡♡♡♡

あ♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

きゅん♡
♡♡♡♡♡



















おっぱい大好きな
おっぱい大好きな
おっぱい大好きな

SEX
SEX
SEX

